

登場人物

高梨小鳥:物語の主人公。

高梨優子:小鳥の叔母(母)小児まひで右足に麻痺が残る。

高梨信雄:小鳥の叔父(父)若い時の交通事故により下半身不随。

鈴木加代:小鳥の実母、優子の妹。

新井奈々:小鳥の親友。

海音寺翼:小鳥の会社の後輩。

コギャル 1:小鳥と奈々の同級生。

コギャル 2:小鳥と奈々の同級生。

丸山園長:奈々の育った児童養護施設の園長。

副園長:園長先生の理解者。

男性教師:小鳥のクラスの担任。

合唱部先輩:奈々が所属する合唱部部長。気分が悪い女。

act1

○山形県 海音寺翼自宅(1R マンション)夜

スーツ姿の海音寺がスマホで話しながら押し入れの中を物色している。

海音寺:子供のころ使ってたトレーニング用具ってそっちだっけ？

海音寺は押し入れから収納ケースを取り出しトレーニング器具を探す。

海音寺:先輩に貸そうかと思って。違うって…女の人だけど……まだ、そんな仲じゃないよ

海音寺は収納ケースの中を物色しながら。

海音寺:年上好き？なんの話だよ。昔？年上のお姉さんに？覚えてないー

ボックスの中から黒い子供用のジャージを取り出した時、ポケットに何か入っていることに気づく。

硬く重みがある。

ポケットのファスナーを開き手を入れる。

携帯電話が入っている。

海音寺:ちょっと待って、後でかけ直す

海音寺はスマホを切って、折りたたみ式の携帯電話を開く。

act2

○山形県 中学校 校舎 放課後

誰もいない廊下。

松葉杖をついた優子が中学校の階段を上がっている。

二階にたどり着き一息つく優子。

遠くから合唱部と思われる歌声(ハミング)が聞こえる。

優子:鳥の詩?

優子は歌声のする方へ松葉杖をついて歩いていく。

優子が教室の前で立ち止まりドアの上を見あげると「音楽室」の文字。

ガラガラと音楽室の扉が開き、数名の生徒達が出てくる。

先頭の女子生徒が指示する。

女子生徒:後片付けは1年がやっというて

先頭の女子生徒は優子の姿に気づき、優子の上から下まで見る。

優子:こんにちは

女子生徒は会釈だけして歩いていく。

女子生徒の後をついていく取り巻きの生徒達。

優子:感じわるっ

音楽室内を覗き込むとショートカットで茶髪、ルーズソックス、制服のスカートを短めにした女子生徒(奈々)が後片付けをしている。

優子の姿に気づきニコツとしてから頭を下げる奈々。

奈々は優子に近づいてきて挨拶する。

奈々:こんにちは

優子:こんにちは

奈々:なにかご用ですか?

優子:良い歌声だったから、つい

奈々:へへへ、うれしいです

優子：三者面談なのに寄り道してって娘に怒られるわ

奈々：案内しましょうか？

優子：でも、片付けしないとー

奈々：あとで適当にやりますから

優子：先輩に怒られたりしない？

奈々：あの人たち命令ばっかして偉そうなんです

優子：やなやつらだね

奈々：あいつら気分悪いんですよ！

奈々と優子はおかしそうに笑う。

奈々：行きましょう。何階ですか？

優子：3階って言ってたかな

奈々：もしかして同級生かも。名前は？

廊下から走ってくる足音が聞こえてくる。

奈々と優子は足音の方を見る。

走ってくる小鳥の姿。

小鳥は息を切らせ眼鏡を直す。

小鳥：おばさん、はあはあ、探したよ

奈々：いま案内するところだったの

小鳥：ありがとう・・・ございます

奈々：タメ口でいいよ、同級生じゃん

小鳥：・・・ありがとう

奈々：うん

優子：もう始まるの？

小鳥：うん、先生待ってるって

奈々：待たしとけ、待たしとけ

廊下の先の方から生徒達の声が聞こえる。

奈々：やべ、先輩だ

優子：ごめんね、時間取らせて

奈々：いいんですよ、ほら早く面談いきなよ

小鳥：ありがとう

優子：あなた名前は？

奈々:新井奈々です

優子:ほら、あんたも

奈々:小鳥ちゃんでしょ?よろしく

ニコッと笑う奈々と戸惑う小鳥。

小鳥:あっちだよ、行こう

向きを変える優子を支える小鳥。

優子と小鳥の後ろ姿を見送る奈々。

act3

○山形県 中学校 放課後 教室

小鳥と優子が並んで座り、正面に男性教師が事務的な笑顔で座っている。

小鳥は窓の景色をみていて上の空。

教師:授業態度もいいですし、真面目なお子さんですよ。親御さんは心配だと思いましたが、高梨さんくらいの子はみんな—

優子:クラスの子とはうまくやれてますか?

教師:少し大人しい気はしますが…よく図書館にいるな

小鳥:はい

優子:私達がこんな身体で…養子縁組も急でしたから、からかわれたり嫌な思いをしていないかと…

小鳥:平気。大丈夫だよ

優子:こんな調子で

教師:図書館で何読んでるんだ?

小鳥:…ペットの本です。前にカナリヤを飼ってて…

教師:いまは?

小鳥は左右に首を振る。

(白黒の映像)後ろ姿の小鳥(小学6年)がカナリヤ逃がす場面のフラッシュバック。

両手を空にかざしてカナリヤが飛び去った空を見つめる小鳥。

優子:連れてきなって言ったのに

小鳥:いいの、おばさ…母さん。迷惑かけられないから

act4

○同日 中学校 教室内

小鳥は自分の席から教科書やノートを鞆に入れて帰り支度している。
教師は事務的な笑顔と口調。

教師:何かあったらいつでも連絡してください

優子:よろしく、お願いします

小鳥は支度が終わると優子の足元に置かれた松葉杖を拾い上げて、優子に肩を貸して立たせる。

小鳥:いっせーの！

優子:せっ！

小鳥は優子を支えるように歩き、教室のドアを開け優子を先に教室の外に出す。

小鳥:さようなら

ドアが閉まる。

窓から外を眺める男性教師。

校庭脇の歩道を歩く優子と小鳥。

無表情で二人を見ている男性教師。

男性教師は教室のカーテンを勢いよく閉める。

act5

○山形県 海音寺翼自宅(1R マンション) 夜

海音寺は電源ボタンを長押しする。

電源がつかない携帯電話。

海音寺は上着を着て、外に出る。

act6

○山形県 中学校 教室 夕方

クラス札に「1-A」

賑やかな教室内。

生徒達が帰り支度をしている。

廊下から奈々が小鳥を探している。
奈々が小鳥に駆け寄る。

奈々：小鳥ちゃん

振り向く小鳥。
奈々の姿に驚く。

奈々：一緒に帰ろう！
小鳥：わたしと！？
奈々：ダメ？
小鳥：ううん、そんなことない！急いで支度するね
奈々：慌てなくていいよ

帰ろうとしていたコギャル風の二人が奈々に声をかける。

コギャル 1：奈々、部活は？
奈々：やすみー
コギャル 1：マジか！
奈々：マジよ！
コギャル 2：奈々っちカラオケいこう
奈々：今日はパス
コギャル 1：ええ、なんでよ
奈々：今日は小鳥ちゃんと帰るの
コギャル 2：高梨と？

コギャル 1 と 2 は小鳥をみる。

コギャル 1：ふーん。こんなやつとつるんで楽しい？
コギャル 2：ききたかったなあ奈々っちの歌うあゆ
奈々：今度歌うからさ
コギャル 2：言ったねー！
奈々：言ったよー！また誘って
コギャル 1：夜メールすつから
奈々：おう
コギャル 2：約束だかんなー
奈々：わかった

コギャル 1: バイバイ
コギャル 2: バイバイキーン
コギャル 1: それ、言おうとした！
コギャル 2: 早いものがち！
奈々: バイバイキーン

コギャル 1、2 は奈々に手を振って帰る。

小鳥: ごめんね
奈々: なにが？
小鳥: カラオケ
奈々: 私が小鳥ちゃん誘ったんじゃない
小鳥: でも
奈々: 気にしない気にしない。さっ、帰ろう

act7

○山形県 公園 夕方

花壇には白や黄色のチューリップ、百合の花が咲いている。
夕陽が花壇の花々をオレンジ色に染め上げている。
ブランコに乗る小鳥と奈々。
奈々はブランコを漕いでいる。
小鳥が奈々に話しかける。

小鳥: 昨日はありがとう

奈々は不思議そうな顔。

小鳥: おばさんのこと
奈々: あー、面談どうだった？
小鳥: よくわかんない。高校に行けるかわからないし
奈々: 勉強できるんでしょ？
小鳥: だけど私…迷惑かけられないから
奈々: 貰われっ子だから？
小鳥: …うん

奈々はブランコを漕ぐのを止める。

奈々：…ねえ、小鳥ちゃん。私のこと好きになれそう？

小鳥：え？

奈々：私と友達にならない？本当の友達に

小鳥：私で良いの？

奈々：小鳥ちゃんだから良いの！

奈々は立ち上がり、小鳥の方を向く。

小鳥も立ち上がり、奈々の方を向く。

奈々：本当は流れる小川の上でやるもんなんだって

奈々は左の手のひらを小鳥に向ける。

小鳥も左の手のひらを奈々に向ける。

奈々が自分の手のひらと小鳥の手のひらを合わせる。

奈々は照れくさそうな表情。

奈々：確かこう言うの。私、新井奈々は太陽と月がこの世にある限り、親友、高梨小鳥に忠実なることを、ここに宣誓す

小鳥：私も？

奈々：うん。

小鳥は顔から火が出るほど恥ずかしそうに。

小鳥：私、高梨小鳥は太陽と月がこの世にある限り、親友、新井奈々に忠実なることをここに宣誓す

奈々：これで私達ズツ友だね

小鳥：うん！

奈々：メアド交換しない？

小鳥：ケータイ持ってないの

奈々：1円のとかあるからおばさんをお願いしてみたら？

小鳥：平気かな

奈々：私、小鳥ちゃんのおばさん好きだよ。サバサバしてて良いじゃん。そうだ！良いのを見せてあげる！

奈々はカバンからケータイのパンフレットを何冊も取り出す。

奈々：私この機種ほしくてさ、オソロにしたいよね

小鳥：オソロに？

奈々:うん！良くない？

小鳥:嬉しい…かも

奈々:でしょ？着メロも設定して、メール届いたら小鳥ちゃんだってわかるようにするの！

小鳥:いいね！

小鳥はパンフレットの表紙をみる。

小鳥:あゆ好きなの？

奈々:私さ、将来歌手になりたいんだ！

小鳥:なれるよ！おばさん奈々ちゃんのこと褒めてた

奈々:マジでー？

小鳥:…マ、マ、マジで…

奈々:小鳥ちゃんはどう思う？私なれるかな

小鳥:…なれるよ…奈々ちゃん可愛いもん

奈々:マジで！？

小鳥:…マ、マジで！

奈々:やったー！

夕陽が二人の姿を照らしている。

act8

○山形県 家電量販店 夜

海音寺はスマホコーナーで充電器を探している。

店員が海音寺に近づき声をかける。

店員:なにかお探しですか？

海音寺:充電器なんですけど

店員:キャリアはどちらですか？

海音寺:…ツーカー

店員:ツーカー？

act9

○山形県 海音寺翼の車 夜

運転する海音寺。

店員の声。

店員:オークションじゃないと手に入らないのでは……

海音寺が赤信号で停止していると、リサイクルショップの看板が見える。

act10

○山形県 リサイクルショップ店内 夜

ジャンク品コーナーを探す海音寺。

充電器を見つける。

act11

○山形県 海音寺翼の車中 夜

海音寺は充電器を携帯電話につなげてコンセントをソケットに差し込む。

携帯電話のバックライトがつく。

落ち着かない海音寺。

携帯電話の電源ボタンを長押しする。

電源が入ると、録音ボタンが点滅している。

海音寺は恐る恐る録音ボタンを押し音量を上げる。

ザーというノイズ音。

女性の声:小鳥ちゃん…約束守れなくて……ごめんね

海音寺は何かを思い出す。

海音寺は携帯電話を取り落としてしまう。

act12

○小鳥の自宅 小鳥の部屋 夜

小鳥は勉強机に向って携帯電話のパンフレットを見ている。

部屋の外(廊下)からズーツ、ズーツと何かを引きずるような音。

小鳥は音に気づいて、パンフレットを引き出しにしまい、教科書を机の上に出す。

焦っていたので引き出しからパンフレットがはみ出していることに気づかない小鳥。

ドアが開いて信雄(叔父)が下半身を引きずり部屋に入ってくる。

プロレスラーの覆面を被っている信雄。

信雄:さあ、マスカラスの登場です！華麗な空中殺法が得意です！フライングクロスチョップはいつ炸裂するのか！

小鳥:なにそれ？

信雄:ミルマスカラス。プロレスラーだよ

小鳥:知らない

信雄:カッコよかったんだぞ、空中殺法が得意で

信雄は机の方を見る。

パンフレットがはみ出している。

信雄:勉強中だったか？

小鳥:大丈夫

信雄は覆面を脱ぐ。

信雄:学校うまくいってるのか？

小鳥:なんで？

信雄:優子が感じ悪い担任だったって

小鳥:平気だよ

信雄:やりたいことがあったら遠慮しないでやっていいんだぞ

小鳥:…

信雄:オレは子供の頃プロレスラーになりなくてな、柔道習ってたんだ。事故でこんな身体になって、プロレスラーにはなれなかったけど。今となっては良い思い出だよ

小鳥:わたしは夢とかやりたいことなんてないし

信雄:夢を持ちなさいなんて大袈裟なこと言ってるわけじゃない

小鳥:…信おじさんにもおばさんにも感謝してるの、だから—

信雄:小鳥！

小鳥:はい

信雄:俺も優子も、子供と一緒に暮らすなんて諦めてた…諦めるのが夢なんだと思って生きてきた。それが勘違いだってお前が来てからわかったんだ。お前に身の回りの世話をやらせるために引き取ったんじゃない…やりたいと思ったら何でもやってみなさい。オレは応援するよ…優子だってお前と暮らすこと楽しみにしてたんだぞ

小鳥:ほんと？いつも自分でできるからほっとけ！って

信雄:タイガー・ジェット・シンって知ってるか？

信雄はサーベルを咥え、曲げるゼスチャー。

信雄:凶器は使うし反則ばかりする悪役レスラーなんだ。相手はいつも大流血

小鳥は顔をしかめる。

信雄:ある日試合が終わったあと、親とはぐれた子供が会場で泣いてたんだ。それを見つけたシンはどうしたと思う？

サーベルを咥えて曲げるゼスチャーをする。

信雄:俺様がついてるから泣くんじゃねえ、お前を置いていった親はこのサーベルで串刺しにしてやるって、その子を肩車しながら一緒に探してくれたんだ

小鳥:ホント？

信雄:ホント、ホント、何が言いたいかっていうと…優子はタイガー・ジェット・シンなんだ

小鳥:怒るよきつと

信雄:サーベルで刺されそうになったら助けてくれよ

小鳥:私まで刺されそう

信雄:オレ以上にお前のことを思ってるよ、あいつは

信雄は向き(体勢)を変える。

小鳥はそれを手伝う。

信雄:悪いな

小鳥は左右に首を振る。

信雄:無理に母さんだの父さんなんて呼ぼうとしなくていい…

信雄は部屋を出ていこうとする。

信雄の後ろ姿に向って小鳥は話しかける。

小鳥:あのね…私…友達が出来たの

信雄は振り向いて精一杯の笑顔を小鳥に向ける。

信雄の顔のアップ。

信雄:今度見に行くか

小鳥:なにを？

信雄:ケータイ電話

小鳥: いいの？

信雄: 優子も一緒にな

小鳥: はい！

信雄: おやすみ

小鳥: おやすみなさい

小鳥がドアをゆっくり閉める。

act13

○山形県 火葬場 外のベンチ 夕暮れ前

15年後の現代。

ベンチに座った優子は煙突から出る煙を見つめている。

ベンチの傍らには松葉杖が一組立てかけられている。

喪服を着て眼鏡をかけた小鳥(28歳)が優子の隣に座り缶コーヒーを渡す。

優子: あの煙、信ちゃんかな

小鳥: そうかも

優子: あそこから私たちのこと見てんのかな

小鳥: 笑いながら、空中殺法だって

優子: どんな風に見えるんだろ。いつも見上げるばかりでしょ

小鳥: うん

優子: 私も上からの景色を眺めてみたいな

小鳥: やめてよ

優子: 信ちゃんが逝っちゃって、半分肩の荷がおりた

小鳥: …

優子: 自由になって、やってみたかったこともできるよ

小鳥: なにかやりたいことあるの？

優子はため息をつく。

act14

○山形県内 大手スーパー本社 営業部 オフィス 午前

上司のデスクの前でお礼をする小鳥。

小鳥: この度は申し訳ありませんでした

上司: 大変だったな。こっちは心配ないぞ

小鳥:ありがとうございます

上司:なにかあったら遠慮なくいうんだよ

小鳥:ありがとうございます。失礼します

小鳥は一礼して上司の席を離れる。

同僚のベテラン女性社員 1、2 が話をしている。

横を会釈して通り過ぎる小鳥。

同情するような視線で小鳥に会釈を返す社員 1。

社員 2:高梨さん、なにかあったの？

社員 1:お父さんが亡くなられたんだって

社員 2:気の毒に

社員 1:高梨さんの両親って、体が不自由でしょ。付き添いもやってみたいよ

社員 2:あー、だから早退多かったんだ

社員 1 は声をひそめる。

社員 1:まだお母さんも残ってるし

社員 2:大変よねー

社員 1 と 2 はさも同情するような視線を小鳥に向ける。

小鳥は会話に気づいてないふりをしてオフィスの出入り口から出る。

思い詰めた表情で足早に洗面所に向かう小鳥。

小鳥は廊下の曲がり角で海音寺(23 歳)とぶつかる。

海音寺は手に持っていた雑誌を落とし、小鳥が拾い上げる。

雑誌はアクティビティ等が掲載されたレジャー情報誌。

小鳥は海音寺に雑誌を手渡す。

小鳥:ごめんなさい、考えごととしてて

海音寺:大丈夫ですか？

小鳥:ええ、海音寺くんこそ

海音寺:オレはこの通り！

海音寺は片手のガッツポーズ。

海音寺:あの・・・お父さんのこと・・・

小鳥:ありがと

海音寺:小鳥さん頑張ってるなって、オレずっと見て・・・いや、ずっと思ってたんで

小鳥:嬉しい。気遣ってくれてたの？

海音寺:気遣うなんて、そんな

小鳥:…好きなの？

海音寺:えっ？

小鳥:それ

海音寺:ああ、これ？

海音寺は雑誌の表紙に目をやる。

海音寺:オレ体動かすの好きで…もし良かったら、小鳥さんもどうですか？

小鳥:私は—

海音寺:もちろん無理にとは言いません！でも、気が向いたらいつでも声かけてください

小鳥は笑顔で頷き、その場を去っていく。

海音寺はまたダメだったかという顔。

act15

○同日 山形県内 大手スーパー本社 オフィス 夕方

小鳥はパソコンで発注伝票の作成をしている。

オフィスの電話が鳴り、他の社員が電話に出る声が聞こえる。

社員:高梨さん！外線3番！

小鳥:はい

小鳥は受話器を取り、電話に出る。

小鳥:大変お待たせ致しました、高梨で御座います

小鳥は電話の声を聞き、驚いた表情。

小鳥:いま、工作中だから。わかった。仕事終わったらでいい？

デスクの海音寺は小鳥(後ろ姿)の様子をみて心配げな様子。

電話を切り、何事もなかったかのようにパソコンを打ち始める小鳥。

パソコンを入力する手のアップ。

打ち間違えては消し、打ち間違えては消しを繰り返す。

雨粒がオフィスの窓を叩き始める。

act16

○同日 山形県内 喫茶店 夜

客もまばらな店内。

喫茶店の外は土砂降り。

小鳥は2人掛けの席に座っている。

テーブルには手をつけてないぬるくなったコーヒー。

店内では赤ちゃんを抱っこした女性が「パパに迎えに来てもらおうか」と話しかけている。

別の席の若い女性はデザート画像をスマホで撮っている。

カシャ、カシャというシャッター音、そちらをみる小鳥。

act17

○山形県 公園 放課後

カシャ、カシャという音。

制服姿の小鳥と奈々がケータイに向って笑顔を作る。

小鳥:緊張するね

奈々:なんで?

小鳥:こういうの始めてだから

奈々:これ待ち受けにしよう

小鳥:今度おじさんがケータイ買ってくれるって

奈々:マジ?

小鳥:高いのは無理だけど奈々ちゃんと同じ会社のにする..だから、その画像送って

奈々:モチ、必ず送る

小鳥:私も待ち受けにする

奈々:私が一番だよ、アド交換するの

小鳥:奈々ちゃんしかいないもん

act18

○山形県内 喫茶店 夜

停車したタクシーのウインカーの反射に気づき、小鳥が窓から外をみる。

タクシーから水商売風の女が下車し入店してくる。

女性店員が待っているにも関わらず、濡れた髪や服を気にする女。

女性店員が話しかけるとめんどくさげに待ち合わせなのと答える女性。
小鳥を見つけて手を上げる。

加代：待たせたわね。ホント嫌んなるわ

加代は窓の外の雨をみる。
女性店員が席に来る。

店員：ご注文はお決まりでしょうか？
加代：ホット一つ
店員：お客様、お代わりは如何でしょうか？

ぬるくなったコーヒーカップのアップ。

小鳥：大丈夫です
店員：少々お待ち下さい

店員が席を離れる。

加代：…ちょっと遅れたくらいで、怖い顔しちゃって
小鳥：なんで来なかったの
加代：どこに？
小鳥：おじさんのお葬式。おばさん連絡したじゃない
加代：忙しくて連絡つかなかったの
小鳥：忙しいって…
加代：あとから知ったんだよ
小鳥：お線香くらいあげにきてくれたっていいんじゃない。娘を引き取ってくれた恩人だよ
加代：欲しいっていうからあげたの…あの人だって小鳥に身の回りの世話してもらったんだから良かったじゃない
小鳥：世話なんかさせられてない。血が繋がりのない私を大事にしてくれた
加代：どうだか。私は障がい者同士の結婚なんて反対してた。迷惑かけるに決まってるんだから
小鳥：お母さんは？
加代：なによ
小鳥：誰にも迷惑かけてないの？
加代：私はね！小さいときからずっと姉さんの世話したんだよ！

雷が鳴り、赤ちゃんが泣き声をあげる。

加代:ちっ、うるさいわね。子供の泣き声って大っきらい

若い男性店員が加代の注文したコーヒーを持って来る。

店員:お待たせ致しました

加代:ありがと

店員がコーヒーを置き、席を離れる。

加代はコーヒーにスティックシュガーを入れる。

一口飲むと、もう一本スティックシュガーを入れる。

加代:久しぶりに会ったのに、そんな顔しないでよ

小鳥:話って？

加代:・・・お葬式にはたくさん人来たんでしょう

小鳥:おじさんは人に好かれるから

加代:香典もたくさんもらったんだろ

小鳥:ということ？

加代:母さん困ってるんだよ

小鳥:お金？

加代:お前は頭の良い子だね。話が早くて助かるよ。ちゃんと返すからさ。

小鳥:葬式にいくらかかるか知ってる？

加代は舌打ちする。

加代:だから直葬で良いって言ったのに

小鳥:知ってたんじゃない

加代:忙しかったって言ったろ。それよりあの人からなにか残してもらってないの？少しでも良いから母さんに都合して—

小鳥:私、帰る

加代:ちょっと待って、線香くらいつけにしようと思ってたよ

小鳥は立ち上がる。

加代:行けなかったことは謝るからさ

小鳥は加代を見ずに立ち去る。

加代:なんで私ばかり。足が悪いからって姉さんだけ大事にされて

加代はバックからタバコを取り出す。

周囲の人は視線を加代に向ける。

加代はその視線に気づく。

加代:なに、みてるんだよ！

周囲は視線を背ける。

男性店員が加代に近づく。

男性店員:お客様

加代:あいつらが私の方を—

男性:店内は禁煙となっております

加代:ああ…

男性店員は一礼して立ち去る。

加代:私が世話してやったのに。私が助けてあげたのに。なのになんで私のことは誰も

雨は一層激しさを増し、傘は役に立たずずぶ濡れの小鳥。

路肩の排水溝は水が流れきらず溢れている。

act19

○同日 夜 小鳥の自宅 県営アパート

仏間で信雄の遺影を見つめる優子。

ポーチを膝の上に乗せている。

玄関のドア開く音と共に雨凄かった—という小鳥の声。

玄関のコートラックに濡れた上着をかける小鳥。

小鳥が浴室に向かいタオルで体をふく。

仏間から優子の声が聞こえる。

優子:おかえり—

小鳥はタオルで体を拭きながら返事をする。

小鳥:会社に傘置いといて良かった

優子は仏間からポーチを持ってリビングのテーブルに移動する。

優子：忘れてただけのくせに

小鳥：なんか言ったー？

優子：風邪ひかないようにって！ちゃんとふきなよ

小鳥は古びたグレーのスエットに着替えている。

小鳥：はい

頭を拭きながらリビングに入ってくる小鳥。

優子：年頃の娘がそんな汚いスエットで

小鳥：いいの、これ気に入ってるの

優子：さっさと嫁にでも行ってくれれば、私の肩の荷も下りるんだけどね

小鳥：そんな人、いないよ

優子：だろうね。ちょっとそこに座って

小鳥：だろうねってなによ

優子はポーチから通帳と印鑑を取り出し、小鳥の前に差し出す。

小鳥：なに？

優子：信ちゃんが小鳥の結婚のときにつて

横目で遺影の方を見やる優子。

優子：あんたが進学する時のためにつて年金から少しずつ貯めてたの。でも高校卒業してそのまま就職しちゃったでしょ。だからこれは結婚のときにつて・・・ほんとと親不孝な子。あんなに可愛がってた信ちゃんに花嫁姿も見せなかったんだから

遺影の写真を見る小鳥。

信雄の笑顔のアップ。

優子：あんたにつて頼まれたから、渡しておくわ

小鳥：なんで急に

優子：私は施設に入ろうと思って

小鳥：どうして？

優子：外出の時に車椅子が重いとか、色々言われたし

小鳥：そんなの軽い冗談じゃない

優子:うそよ、冗談

小鳥:えっ?

優子:施設にいくっていうのはホント。私がいるからいつまでもお嫁にいけない。面倒見なきゃいけないから休みの日も家の中にいる。そんなボロスエツ着て

小鳥:なんでそんな事言うの?

優子:あんたを引き取ったときに、してみたいことがあったの。男の子の相談されたり、休みの日デートにどこに行けばいいかなとか、この服似合うとか、そんな話をしてる親子になりたいなって。信ちゃんには内緒でデート代をあげたりさ

小鳥:おばさん…

優子:それなのにあんたときら、お世話があるだの、迷惑かけれないだのって…年頃の女の子らしくネイルがどうか、あのサロンは良いとか、男との浮いた話の一つも聞いてみたいよ。冷たくされたとか、フラれたとか。そしたら…私はこうやってやるんだ。私の娘の良さがわからない男なんて捨てちまいなって。それも叶わぬ願いだったみたい

仏間に移動する優子。

優子:奈々ちゃんがいればあんたも少しは変わったのかな

なにも言えない小鳥。

小鳥の視線の一番奥にはコートラック。

コートからぽちろんぽちろんと水滴が落ちる。

act20

○山形県 中学校 教室 休み時間

それぞれの友人達と喋ったりふざけたりするクラスメイトの中で小鳥は一人、席に座っている。

小鳥はケータイのパンフレットを見ている。

コギャル 1:おい、高梨

振り向く小鳥。

コギャル 1:お前奈々と仲が良かったよな

小鳥:うん

コギャル 1 はプリント数枚を小鳥の机に置く。

コギアル 1:これ届けてやってくんねー

小鳥:いいけど…

コギアル 2:奈々っちさ、じいちゃん具合が悪くてガッコー休んでんだよ。センセーに頼まれたんだけど、うちら忙しくてさ

教室ドア付近から男子生徒の声。

男子生徒:まだかよー！？

声の方を見ると数人のヤンキーっぽい男子生徒達の姿。

コギアル 1:今行くって！そういうことだからさ、よろしく！

コギアル 2:奈々っちに早く来いよって言っというて！

コギアル達は男子生徒達と腕を組んだり手を繋いだりしながら教室を出ていく。
小鳥はプリントをカバンにしまう。

act21

○山形県 平屋(奈々の自宅)付近 夕方

同じような形の平屋が並んでいる。

小さな公園があり、黒いジャージを着た男の子がリフティングしている。

小鳥は公園の横を通り、平屋の玄関に立つ。

act22

○山形県 平屋 室内 夕方

和室に布団が引いてあり、老人が寝ている。

ピンクのスエットの上下を着た奈々がお盆に水と薬を乗せて部屋に入ってくる。

奈々:じいちゃん、薬の時間だよ

老人:おお

老人が起きるのを手伝う奈々。

老人:ありがとう

奈々:つまらせたら大変だからゆっくり飲んでね

呼び鈴が鳴る。

奈々:誰か来た! じいちゃん、ちょっと待っててね! お客さんだから!

老人:ああ、わかった

act23

○山形県 奈々の自宅 平屋 玄関

小走りで玄関に向かう奈々。

奈々:忙しいつつうのに

再度呼び鈴になる。

奈々:はいはい、今開けますよっと

スエット姿の奈々が玄関の引き戸を開ける。

制服姿の小鳥が立っている。

奈々:小鳥ちゃん

小鳥:プリント届けにきたよ

act24

○山形県 奈々の自宅付近の公園 夕方

スエットにサンダル of 奈々と制服姿の小鳥がベンチに座っている。

先ほどリフティングをしていた少年は見当たらない。

おだやかな風に吹かれて公園の草木が揺れている。

奈々:こんな格好で恥ずかしいな

小鳥:そんなことない…すごく、可愛いと思う

奈々:ありがと

小鳥:奈々ちゃんのお友達が早くガッコーこいよって。みんなさみしがってたよ

奈々:小鳥ちゃんは?

小鳥:えっ?

奈々:小鳥ちゃんに会えなくてちょー寂しかった。小鳥ちゃんは何?

小鳥:寂しかった。だから…今…ちょーちょー嬉しい

奈々:私もちょー嬉しい。

小鳥:いつ学校に来れる?

奈々:うちさ、じいちゃんと二人で暮らしてるから、じいちゃんが治ったらいくよ

小鳥:待ってる

奈々:歌手になりたいって言ったでしょ?有名になってじいちゃんを楽させてあげるんだ

小鳥:大好きなんだね

奈々は小鳥の方を見る

小鳥:おじいちゃんのこと

奈々:小さい頃ずっと施設で育ったの。じいちゃんが引き取ってくれたから施設から出れたんだ。もう歳で体も悪いのにさ。だから歌手になってじいちゃんに楽をさせて……そして私のこと置いてったお父とお母に私の姿、見せつけてやるんだ

小鳥:私ファン1号になる。奈々ちゃんのことずっと応援する

奈々:なれるかな?

小鳥:なれるよ、絶対

リフティングをしていた少年が走って二人に近寄ってくる。

奈々:どしたの?ばっさー

小鳥:この子は?

奈々:うちの隣の子

少年:ん

少年はのど飴を奈々に差し出す。

奈々:ありがと

少年は頷く。

奈々が受け取ると、ポケットからのど飴を取り出し小鳥にも差し出す。

小鳥:私にも?

少年:ん

奈々:やさしいー

少年は恥ずかしそうにする。

早く取れと小鳥に催促する。

少年:ん、ん、ん

小鳥:ありがと

奈々:ばっさーかわいいー

奈々が頭をわしゃわしゃ撫でると少年は走って逃げていく。

奈々:車気をつけろよー！

奈々は少年の背に手を振る。

奈々:私が歌手になりたいって言ったら、会うたびのど飴くれるの

小鳥:奈々ちゃんー

奈々:奈々でいいよ。その代わり・私も小鳥って呼んでいい？

小鳥:うん

奈々:次ガッコーで会ったら「おはよー小鳥」って言うからさ、「おはよー奈々」って言って

小鳥:わかった

奈々:約束だよ

小鳥:約束する

指切りする小鳥と奈々。

夕陽が落ちかけ空がオレンジと青のグラデーションになる。

act25

○山形県 県営アパート 小鳥の自宅 午前

天気が良く日差しが室内にも差し込む。

ベランダの手すりから水滴が落ちる。

洗濯後の衣類の入ったカゴを押しながら、膝をついた姿勢で手を使って進む優子。

ベランダの前に到着し、一息ついてから腕の力だけで立ち上がろうとする。

苦勞しながらもなんとか立ち上がろうとする。

スエット姿の小鳥が優子の姿を見て、支えようと小走りに駆け寄る。

小鳥:私がやるよ

優子:洗濯干すくらいできるよ

小鳥:車椅子使えばいいのに

優子:うるさくて下の人に迷惑がかかるだろ

優子は立ち上がれずに座わりこんでしまう。

優子:少しでも動いておかないと

小鳥:本当に施設に入る気？

優子:そのつもり

小鳥は洗濯カゴからタオルを1枚取る。

タオル(手元)アップ。

小鳥はタオルをパンツと音が鳴るように広げる。

Act26

○山形県 七日町商店街 昼

休日で賑やかな商店街。

車椅子に優子を乗せて、小鳥が押している。

あっちに行きたいと指を指す優子、それに応える小鳥。

デパート(商業施設)に入る二人。

アパレル店で優子の洋服を選ぶ小鳥。

選んだ服を鏡の前で合わせるが、似合わないと言首を振る優子。

優子は小鳥の服を選び、小鳥はしぶしぶ試着室に入る。

少し派手な服で、恥ずかしそうに試着室から出てくる小鳥。

良いじゃないと拍手する優子。

ショッピングセンター通路沿いに陳列されている試着用のメガネフレーム。

小鳥は少し派手な色のフレームを選び、恐る恐る試してみる。

首を振る小鳥。

後ろから優子の声。

優子:コンタクトにしなよ

小鳥:私には無理

小鳥は優子の後ろに戻り車椅子を押す。

優子:そんな地味な眼鏡なんて外して—

小鳥:でも…

優子:金だの青だのにしろって言ってるわけじゃないんだから

車椅子を押しながら小鳥はショーウィンドに映る自分の姿を見る。

小鳥：…私はこのままでいいの！

小鳥は歩くスピードを早める。

優子：ちょ、眼鏡のままでいいからそんなスピード出さないで

小鳥：あっごめん

笑い合う二人の姿。

ゲーとお腹がなる小鳥。

さらに笑う二人。

優子：お昼にしようか？

小鳥：うん。フードコートがいいな

優子：よく三人で来たね

act27

○山形県 商業施設 フードコート 昼

信雄と優子が並んで座り、向かいに座る小鳥の様子を見る。

小鳥は携帯電話の説明書を見ながら悪戦苦闘している。

優子：どんだけ嬉しんだか

信雄：いいじゃないか

優子：のぶちゃんは小鳥に甘いの…奈々ちゃんとするの？

小鳥：うん！

act28

○山形県 商業施設内 昼

車椅子を押しフードコートへ向かう小鳥と優子。

優子：ケータイ屋さんなくなった

小鳥：旅行代理店に変わってたね

優子：何もかも変わっていくんだね…あんたも取り残されないようにしなさいよ

小鳥：だれに？

優子：時代に

小鳥：…

小鳥と優子の前を歩く仲良さそうな若いカップル。

優子:あんな風な人見つかるといいね

小鳥:またその話

小鳥は片方の頬を膨らませ優子を睨む。

優子:で、今日は何食べんの？

小鳥:焼きそばとたこ焼きのセット

優子:昔からそればかり

小鳥:好きなんだもん

優子:だからたこ焼きみたいな顔になっ—

小鳥:なんか言った？

優子:いいえ、なにも

小鳥は少しだけ足を早める。

優子:うそだよ、冗談！

小鳥:聞こえませーん

二人はフードコートに入っていく。

フードコート付近に旅行代理店がある。

旅行代理店のパンフレットを読んでいた海音寺がフードコートの方を見る。

車椅子を押す小鳥の後ろ姿。

act29

○山形県 商業施設内 フードコート

窓際の席に車椅子を押して席を取る小鳥。

小鳥は備え付けの椅子をよけて、優子の席を準備する。

優子:なんで端っこの席にしたの？

小鳥:ここならお手洗いも近いし

優子:そう

小鳥:なんにする？

優子:冷たい肉そばがいいかな

小鳥:その手があったか…買ってくるから、ちょっと待ってて

小鳥は席を離れる。

小鳥の後ろ姿を見た後、窓越しに空を見上げる優子。

優子に男性の声で「雨が上がって良かったですね」と声がかかる。
声の方を見る優子。

act30

○同日 山形県 商業施設内 フードコート

小鳥がお盆に冷たい肉そば二つとたこ焼きを乗せて運んでくると、優子と男性が話している。

優子の笑顔が見えるが、小鳥からは話相手の背中しか見えない。
怪訝な表情を浮かべ、静かに席に近づく小鳥。

小鳥:あの…なにかご用ですか？

海音寺:小鳥さん！

小鳥:海音寺くん！なんで？

海音寺:いやー、運命かなー、さっき小鳥さんの声が聞こえたのでもしかしたらと思って

小鳥:ええ…ちょっと怖いよ

海音寺:違うんです！違うんです！偶然なんです！後をつけたりしたわけじゃ

優子:さっきまであそこにいたんですって

旅行代理店の方を指さす優子。

小鳥:ホントに？

海音寺:ホントです、ほらここに

海音寺は手に持っていたパンフレットを小鳥に見せる。

優子:会社での小鳥の様子も教えてくれたの

小鳥:何言ったの？

海音寺:なにも言ってないです！仕事も出来て、優しくて、面倒見がよくて、その…(小
声で)かわいくて

小鳥:えっ、なんてー

海音寺:仕事も小鳥さんに教えてもらいましたって

優子:あんたも座んなさいな

海音寺:そうですよ、麺がのびちゃいますよ！温かいうちに召し上がってください！あ
っ冷たいのか、あははは

クスクス笑う優子。

小鳥: なによ

海音寺: オレも何か買ってきます…その…お邪魔じゃなければ…

優子: みんなで食べたほうが美味しいもの

小鳥: ちょっと！

海音寺: じゃあ買ってきます！鶏中華にしようかな、大盛りにしちゃうぞ！

満面の笑顔の海音寺。

ウキウキで冷たい肉そばの列に並びにいく海音寺の後ろ姿。

小鳥: 勝手に決めて

優子: あんたが男の子と一緒に食事する姿なんてこの先見れないかもしれないしさ

小鳥: もう！

act31

○同日 山形県 商業施設内 フードコート

テーブルの上には食べ終わった丼が並べられている。

三つの丼を一つのお盆にまとめる海音寺。

海音寺の様子を微笑ましく見る優子。

優子の視線を追いかけて海音寺を見る小鳥。

海音寺は立ち上がりお盆を持つ。

海音寺: あの…叔母様はなにか飲み物いらしますか？

優子: アイスコーヒーお願いできる？

海音寺の顔はみるみる笑顔に変わる。

海音寺: 小鳥さんは？

小鳥: ちょっとおばさん！

小鳥は鞆から財布を出そうとする。

海音寺: いいんです！いつもお世話になってるんですから…コーヒーくらい、ご馳走させてください…小鳥さんは…

優子が小鳥にウインクする。

小鳥: わたしも同じので

海音寺: わかりました！少々お待ち下さい！

お盆を忘れて買いに行ってしまう海音寺。

小鳥：海音寺くん！

立ち上がりお盆を持っていく小鳥。

ペコペコ小鳥に頭を下る海音寺。

二人の様子を笑顔で見る優子。

小鳥がお盆を持ち、隣で頭をかく海音寺の後ろ姿をいたずらっ子のような顔で見る優子。

小鳥が井を下げて席に戻る。

小鳥：ニヤニヤしちゃって

優子：あんたってバカね

小鳥：なにが？

優子：もっと話したいってことでしょ

小鳥：わ、わかってるわよ

優子：ホント？…それにしても私のこと…叔母様ですって

小鳥：私も叔母様って呼ぶ？

優子：良い人じゃない

小鳥：べ、別に、悪い人なんて言ってない

優子：気になるんでしょ？

小鳥：そういうんじゃない

優子：そういうんじゃない？

小鳥：……

優子：この調子じゃ、私は行かず後家のあんたに看取られてあの世へ旅立つんだねえ

優子は大袈裟に天を仰ぎながら、チラッと小鳥の顔を見る。

小鳥は目を背ける。

小鳥が目を背けた先のテーブルの上に海音寺のパンフレットが置いてある。

パンフレットにはパラグライダーの写真と「山形南陽は空もバリアフリー！車椅子タンデムフライト体験！」の文字。

act32

○同日 山形県 商業施設内 フードコート

小鳥はグラスを手に持ち中の氷をストローでくるくる回している。

優子：へえー、モンテディオの応援にも行くんだ
海音寺：地元民としてはやっぱり応援したいですから
優子：ねえ、海音寺くん。私からお願いがあるんだけど
海音寺：何でも言ってください
優子：小鳥も一緒に連れて行ってほしいの
海音寺：も、もちろん大歓迎です！
小鳥：勝手に決めないで！私サッカーわかんないもん

優子はため息をつく。

海音寺：自分を見るだけじゃなく、やるのも好きなんですよ
優子：サッカー？
海音寺：他にも、海でダイビングしたり…パラグライダーしたり
優子：そのパンフレットのやつ？
海音寺：始めたばかりなのでインストラクターと一緒になんです
優子：それって誰でも飛べるの？
海音寺：体験コースでしたら
優子：空を飛ぶって…どんな気持ち？

火葬場の煙突から出る煙のフラッシュバック。

海音寺：景色は素晴らしいし、爽快感があります。小さいことで悩んでた自分がバカ
みたいだなって。そりゃ命綱も付けずに空を飛ぶんですからやっぱり怖いです…ちゃん
と地上に帰ってこれるのか…
優子：怖いのになんでまた飛ぼうとするの？
海音寺：何にも縛られない自由さがあるからです

優子の表情を見る小鳥。
手に持ったグラスの中の氷が半分溶けている。

優子：私も乗ってみたいな
海音寺：行きましょう！ここは車椅子に乗ったまま飛ぶことも出来ます！
優子：ちょっとドキドキしてきた
小鳥：おばさん
優子：小鳥も乗るよね？
小鳥：乗らない
優子：楽しみになってきた！

海音寺:オレインストラクターの資格取りたいなあ、そうしたら叔母様とも…小鳥さんとも一緒に飛べるようになるので！

小鳥を見やる海音寺。

Act33

○同日 夜 小鳥の自宅 県営住宅前

停車中の車。

車椅子を降ろし、優子の身体を支え座席から車椅子へと介助する海音寺。

その様子を黙って見守る小鳥。

運転席に乗り込み、ドアを閉める海音寺。

海音寺:今日は楽しかったです！

優子:こちらこそ

海音寺:またご一緒しても

優子:もちろんよ、ねえ

小鳥はふくれっ面。

車に乗り込む海音寺。

軽く手を上げて車を発進させる。

車が去っていくのを見送る優子と小鳥。

優子:車の乗り降りも男手があると助かるわね

小鳥:そうだね

エレベーター乗り込み、ボタンを押す小鳥。

優子:あなたも乗りなよ

小鳥:乗ってるじゃない

優子:パラグライダーによ

小鳥:いやよ

優子:なんで？

小鳥:…

優子:意気地なし

チーンという到着を知らせるチャイム。

車椅子を押して出てくる二人。

小鳥自宅の玄関前に加代が立っている。
ゆっくりと小鳥たちに近づいてくる加代。

優子:ねえ、小鳥

小鳥:なに？

優子:ちょっと手を離してくれる？

小鳥が手を離すと優子は自分で車輪を回して進んでいく。
エレベーターエントランスと自宅玄関の間地点で加代と優子は向き合う。

加代:おかえり

優子:なにしにきたの？

加代:お線香でもつけようと思って

優子:線香はつけるもんじゃなくて、あげるものよ

小鳥をみる加代。

加代:いい身分ね、小鳥の男に送らせて

優子:関係ないだろ

加代:関係あるわよ、娘ですもの

優子:娘？よく言えたもんだ

加代:姉さんこそ、よく私にそんな口がきけるわね。小さいときは私に世話させて、今は私の娘の世話なってるくせに

優子は車椅子から立ち上がろうと通路の手すりにつかまって立ち上がろうとするが、失敗して床に手をついて倒れてしまう。

小鳥は慌てて近づこうとするが、途中まで来たところで優子に制される。

優子:来ないで！

優子は時間がかかりながらも手すりにつかまり手すりにもたれながら立ち上がってみせる。

優子:私はこうやって一人で立ちあがれる。立ち上がってあなたと同じ目線で話すことも出来る

加代:それがやっとのくせに

優子:加代、あんたは？

加代:私？

優子：子供のころはあんたに面倒をかけた。学校で嫌な思いをさせたかもしれないね。今だって小鳥の手を借りないと出来ないことの方が多い。一人で出来るって言って、転んで擦りむくこともある。でも私はそうやって自分の人生を生きてきたわ。信ちゃんとの結婚も小鳥を自分の娘にすると決めたことも。色々言われたけどね。あんたはどうなの？

加代：わ、私は一人で—

優子：自由になりたいって家を飛び出して、面倒見切れないって子供をほったらかして、一人で生きてる？笑わせんじゃないよ！いい加減、小鳥を自由にしてやってくれない？小鳥の周りをウロチョロされると迷惑なんだよ

加代：小鳥を縛ってるのはそっちも同じでしょ！

優子：私は施設に入るんだ

加代：娘に会うのは自由—

優子：小鳥は私の娘だ！お前の娘じゃない

加代：小鳥は私が産んだの！

優子：そう。そして捨てた

加代：…

優子：ねえ、小鳥。私も信ちゃんもあんたの鳥かごじゃない。あんたは鳥かごの中に閉じ込められた小鳥じゃない。かごから出て自由になっていいの。人を信じきれない弱さを捨てられたせいにしなくて。怖さに立ち向かえない自分の不甲斐なさを人のせいにする。それは卑怯者がすることよ！あんたは卑怯者なんかじゃない。私と信ちゃんの娘よ！車椅子を押す手を離して自分の足で歩いてほしいの。私と信ちゃんが辿り着けないような遠くまで

優子は一人で立っていられず前のめりに倒れてしまう。

倒れてくる優子の体を避ける加代。

慌てて駆け寄る小鳥。

小鳥は思わず加代の体を突き飛ばしてしまう。

小鳥：大丈夫？？おばさん！痛いところある？ねえ、おばさん！

加代は突き飛ばされた少し離れた場所で親子の姿を見ている。

act34

○山形県内 夜 商店街

小鳥は商店街の道を地味な色のパンツスーツと眼鏡をかけ、バッグを肩にかけて歩いている。

小鳥が看板に気づく。
看板には「○△□スポーツジム」の文字。
小鳥は商店街のガラス張りの窓から中の様子を伺う。
ジム内の人影はまばらで空いてる様子。
バイクを漕ぐ海音寺を見つける小鳥。
小鳥が海音寺に小さく手を振るが気づかれない。
思い切って大きく手を振る小鳥。
海音寺が小鳥に気づいて笑顔になり、ジム内から入り口は向こうと指を指し示す。
小鳥は入り口に向かう。

act35

山形県内 夜 スポーツジム内 休憩スペース

ソファーに座る小鳥と海音寺。
海音寺は体が冷えないようにＴシャツの上から青いジャージを羽織っている。
ジム内には有線放送から軽快な音楽が流れている。
テーブルの上に紙コップの水とスポーツドリンクが置かれている。

小鳥：大したことなかったの。少し足を擦りむいちゃって
海音寺：ケガが軽くて本当に良かったです
小鳥：おばさんは飛ぶって頑張ってるんだけど、無理はさせられないから..
海音寺：大丈夫です！ケガが回復したら飛びましょうとお伝えください
小鳥：ありがとう
海音寺：あの..小鳥さん
小鳥：なに？
海音寺：小鳥さんは飛ばないんですか？
小鳥：私は—
海音寺：いや、オレがこんな事言うのは..でも..

海音寺はスポーツドリンクを一気に飲み干す。

小鳥：..
海音寺：あの、小鳥さん
小鳥：はい
海音寺：オレ、叔母様の言いたいこと、なんとなくわかります
小鳥：海音寺くんが？

海音寺：偉そうに聞こえるかもしれないけど、オレはわかるんです

小鳥：私が意気地なしだってこと？勇気がないって

海音寺：違うんです、違うんです、そういうんじゃないんです

小鳥：はっきり言って

海音寺：…ちょっとだけ待っててもらっていいですか？

小鳥：うん

海音寺は立ち上がりジム内へ戻っていく。

小鳥は紙コップを弄びながらソファに座っている。

遠くから(ジム内)から一定のテンポで聞き慣れた音が聞こえてくる。

段々小鳥にその音が近づいてきて、小鳥はそちらを見る。

松葉杖をついた片足の海音寺が立っている。

海音寺：子供の頃、交通事故で

小鳥：ごめんなさい、私知らなくて

海音寺：退院してきたばっかの頃、オレ引きこもりになってたんです。サッカー選手になりたかったのにつて

小鳥：…

海音寺：そしたらうちの親父がいきなり部屋にパソコン持って入ってきて…怒られるの
かなって覚悟してたら…これ見てみろって

パラリンピックの映像。

海音寺：オレと同じような人や車椅子に乗った人が自分自身と戦ってる姿が映ってた
んです

小鳥：…

海音寺：親父がオレに言ったんです。挑戦をやめたことをケガのせいにするなって。オ
レはいつでも応援するから、自分のやりたいことをやってみなさいって

※フラッシュバック

信雄「やりたいと思ったら何でもやってみなさい…オレは応援するよ」

海音寺：小鳥さん、少しでも興味があるなら一緒に挑戦してみませんか？

小鳥：…

海音寺：…すいません。なんかオレ余計なこと言ってしまっって…忘れてください

海音寺はジム内に戻ろうと背中を向ける。

小鳥：海音寺くん！

※マスカラスの入場テーマのイントロが流れる。

act36

○山形県内 小鳥の自宅 県営住宅 早朝

※バックにマスカラスの入場テーマが流れたまま。

スマホのアラームを消す小鳥。

スマホの画面は 5:00。

小鳥はジャージ姿で玄関を出ていく。

小鳥が商店街を走っていく。

※ナレーション

海音寺の声「飛ぶ前に助走をつけなきゃならないので軽くランニングでもしておいた方がいいと思います」

犬の散歩のおじさんにあいさつされ、恥ずかしそうに頭を下げる小鳥。

息が切れてすぐに歩いて立ち止まってしまう。

後ろから老人のランナーにおはようとあいさつされるが、息を切らせて応えられない小鳥。

再び走り出す小鳥。

act37

○山形県 大手スーパー本社内 階段

2 段重ねの段ボール箱を持ち階段を登る小鳥。

筋肉痛でなかなか上がれない。

海音寺が近づき段ボールを半分持ってあげる。

act38

○山形県 県営アパート 小鳥自宅 早朝

ジャージ姿の小鳥が玄関から出ていく。

散歩のおじさんに軽くだが自分からあいさつする小鳥。

ニコニコしたおじさん。

老人のランナーに抜かされてしまうが、なんとかついていこうと頑張る小鳥。

山形駅に着き、タオルで顔をふく小鳥。
眼鏡が邪魔で眼鏡を外して走っていく。

act39

○山形県 大手スーパー本社 営業部 朝

会社で同僚の女性社員二人の前を遠慮がちにあいさつして通り過ぎる小鳥。
不思議そうな女性社員二人の表情。

act40

○山形県 商店街 夜

仕事帰りの小鳥が眼鏡屋さんに入る。
小鳥が足早に眼鏡屋さんから出てくる。

act41

○山形県 県営アパート小鳥自宅 洗面所

鏡の前でコンタクトを入れるのに悪戦苦闘する小鳥。
鏡に映る自分を見る。
目をシパシパさせる。
コンタクト姿の小鳥が優子の前を横切ると驚く優子。

act42

○山形県 大手スーパー本社 営業部 朝

会社で同僚の女性社員 1 と 2 に自ら明るくあいさつする小鳥。
女性社員 1 が眼鏡はと指さすとニッコリ笑顔で応じる小鳥。
女性社員 2 が指で ok(似合ってる)サインを作る。

act43

○山形県 商店街 早朝

ランニング中の小鳥は自分から散歩のおじさんにあいさつする。
手を振るおじさんに手を振り返す小鳥。
老人のランナーと並走する小鳥。
老人のランナーに手を振り別れ、山形駅に到着する小鳥。
小鳥はタオルで汗を拭きながら、空を見上げる。

雲一つない青空が広がる。
小鳥は山形駅を背に真っ直ぐな通りを走り去っていく。

※音楽はフェードアウトする。

act44

○山形県 山形市内 喫茶店 夜

仕事終わりの小鳥。
店内の二人掛けの席に座っている。
小鳥の前にはホットティーが置かれ、カップソーサーにピンク色のライラックの花
が添えられている。
仕事帰りでスーツ姿の海音寺が入店してくる。
店員に同じものと頼み小鳥の席に座る。

海音寺:遅れてすみません
小鳥:私の方こそ呼び出してごめんなさい
海音寺:いいんです、気になさらないでください
小鳥:海音寺くんにお礼が言いたくて
海音寺:オレにですか？

ライラックの花のアップ。

act45

○山形県 中学校 休み時間

トイレから出てくる小鳥。
廊下で待ち伏せしていたコギャル 1 とコギャル 2

コギャル 1:ちょっとツラかせよ

小鳥はコギャル 1 と 2 に挟まれて連れていかれる。

act46

○山形県 中学校 休み時間

前日に雨が降り、校庭の所々に水たまりが残っている。
体育館裏に連れてこられ、壁に突き飛ばされる小鳥。

コギャル 1: お前知ってたのかよ？

小鳥: 何をですか

コギャル 1: 奈々のことだよ

小鳥: 奈々ちゃんおじいちゃんの看病で休むって

コギャル 2: 奈々っち転校したんだよ

小鳥: うそ

コギャル 1: ウソじゃねえよ、今日センコーから言われたんだよ！なんで黙ってたんだよ！

小鳥: 私も知らなかった

コギャル 1: うちらだって奈々のダチだったの知ってんだろ！

水たまりに突き飛ばされる小鳥。

ポケットからケータイが落ちる。

コギャル 2: 奈々っちとメールしてたんじゃないの？

小鳥: 買ってもらったばかりでー

コギャル 2 はケータイを拾い上げて勝手に中を見る。

コギャル 2: 誰のアドも入ってないじゃん

コギャル 1: さみしいやつ

コギャル 2: それほどの仲でもなかったってことかー

コギャル 1: 奈々と友達ヅラしてて気に食わなかったんだよ

コギャル 2: ごめんねー

コギャル 2 はケータイを小鳥に放り投げる。

小鳥にぶつかり、水たまりに落ちるケータイ。

小鳥はケータイを拾い、立ち上がり走り出す。

コギャル 1 とコギャル 2 にぶつかるが、小鳥は謝りもせず走っていく。

コギャル 1: なんだよ、あいつ

制服が汚れたまま、校門を出て走っていく小鳥。

act47

○山形県 歩道 昼

小鳥が奈々の自宅へ走っている。
途中でサイレンを鳴らした救急車が小鳥とは逆方向へ走っていく。
小鳥と救急車がすれ違う一瞬、スローモーションになる。
走る小鳥の後ろ姿。
サイレンの音が遠ざかる。

act48

○山形県 平屋 奈々の自宅 昼

息を切らせながら玄関の前にたどり着く小鳥。
呼び鈴を鳴らす音が鳴らない。

小鳥：奈々ちゃん

周辺は静かで小鳥の声が響く。

小鳥：置いてかないでよ

人の気配のない奈々の自宅。

小鳥：奈々ちゃん！

崩れ落ちる小鳥。

小鳥：奈々ちゃん！！

act49

○山形県 山形県市内 喫茶店 夜

テーブルの上にはライラックの添えられた小鳥のホットティーと海音寺の前には
白いバラの花びらが添えられたホットティーが置かれている。

小鳥は一口ホットティーを飲む。

小鳥：おしゃれな店だね。私には似合わないかな

海音寺：そんなことないです

小鳥は照れくさそうに笑う。

海音寺:そのご友人とは？

小鳥:会ってない…連絡先も知らないし…

海音寺:ご事情があったんだと思います

小鳥:そうだといいな

海音寺:そうに決まってます

小鳥:怖かったの。また大切に思う人ができるのが。私お婆さんの言う通り意気地なしだった

海音寺:そんなことは

小鳥:でもね、海音寺くんのおかげで一步踏み出せそう。本当にありがとう

海音寺:オレの方こそ、小鳥さんに元気をもらってて…オレ…小鳥さ—

小鳥:海音寺くん

海音寺:はい

小鳥:私も筋トレしようかな

海音寺:は、はい、いい考えだと、思います

小鳥:パラグライダーは来週だよね？それまで少しずつ筋トレもしていこうと思って

海音寺:素晴らしいと思います……良かったらオレが子供のころ使ってた鉄アレイとかお貸ししましょうか？

小鳥:私に持てるかな？

海音寺:軽いやつですから、女性が始めるには丁度良いかと

小鳥:海音寺くん、頼りになるね

海音寺:そりゃ、小鳥さんのためでしたら…

小鳥:どうかした？

海音寺:いえ、今度お持ちします

笑顔の小鳥。

小鳥の笑顔に合わせる海音寺。

ティーソーサーに添えられた白いバラの花びらのアップ。

act50

○山形県 海音寺翼の実家(平屋) 夜

駐車場に車が止まりスーツ姿の海音寺が降りてくる。

手には携帯電話が握りしめられてる。

玄関を開けると急ぎ足で居間に入る。

テレビを見ている海音寺の母と父。

父は瓶ビールを飲んでご機嫌な様子。

海音寺：母ちゃん

母：どうしたの急に

父：久しぶりだな

海音寺：聞きたいことがあって

母：なによ

海音寺：子供のころ隣に住んでたおねえさんのこと覚えてる？

母：電話でも言ったろ。小さい時にお前が大好きだったお姉さんがいたって

海音寺：なんで引っ越したの？

母：そりゃ家庭の事情でしょ

父：あの子偉かったな。じいさんの面倒見ながら学校に行ってさ

母：孫を施設から引き取れて良かったって

海音寺：どこに行ったかわかる？

母：おじいちゃんが亡くなって、確か・・・また施設に戻るって聞いたよ

海音寺：どこの？

母：あんた熱のでもあんの？

海音寺：いいから、どこの

母：確か仙台って・・・

父：そうそう、8月に七夕飾りしてたから聞いたんだよ。そしたらあの子の故郷では8月7日に七夕祭りするって

act51

○山形県 海音寺翼自宅(1R マンション) 朝

デスクに座り電話する海音寺。

海音寺：もしもし、おはようございます。営業部の海音寺です。大変申し訳ございませんが、体調を崩してしまいまして・・・はい、お休みさせて頂けますでしょうか？はい、承知致しました。はい、はい、失礼致します。

海音寺はスマートフォンを切り、深い息を吐く。

ノートパソコンを開き、文字を入力し検索する。

ノートパソコン画面「仙台市 児童養護施設」

act52

仙台市内 児童養護施設 事務所 昼

施設の入り口は緩やかな坂。

その脇の花壇には綺麗な花が植えられている。

60代男性(副園長)が電話で言い争いをしている。

副園長:あなたもしつこいですね、何度言われてもお答えすることは出来ないんですよ!もう退所もしてますしね、ええ、連絡先も教えられないし、連絡出来るともお答え出来ません。だから、何でも言うように伝言も—

70代の柔らかな雰囲気をした女性(園長)が白い百合を生けた花瓶を手に入ってくる。

園長:どうしたんです?大きな声を出して

電話口を押さえて話す副園長。

園長は机に花瓶を置き椅子に座る。

副園長:奈々ちゃんに連絡が取りたいって、山形時代の幼なじみらしいんですが

園長:女性?

副園長:いいえ、男性です

首を横に振る園長。

頷く副園長。

副園長:申し訳ございませんが……小鳥さんと言えはわかる?そう申されましても—

園長:ちょっと待って、私に変わってください

副園長:えっ!

園長は副園長から急いで受話器を受け取る。

園長:お電話変わりました。園長の丸山と申します。小鳥さんのお知り合いですか?

act53

○山形県 南陽スカイパーク ログハウス内 昼

テーブルの上に飲み物が置かれている。

室内には小鳥、優子、海音寺の三人。

小鳥:今日は静かだね、体調まだ悪いの?

海音寺:いえ、もう大丈夫です。小鳥さんこそ何も食べてないですけど平気ですか?

優子:この子ったら体調チェックの時から緊張してるだもん。高梨さん…はひいだって

小鳥:そんなこと言っていない

海音寺:叔母様が一緒に来られて良かったです

優子:飛びたかったけどね

海音寺:次回は是非

優子:今日は下から小鳥の姿を見守ることにするわ

係員が小鳥を呼びに来る。

係員:高梨さ一ん、次行きまーす

小鳥:は、はひい

優子:ほら

海音寺:一緒に行きましょう

小鳥はカチカチで出ていく。

海音寺は車椅子を押して小鳥の後を追う。

説明を受けている小鳥を見守る海音寺と優子。

優子:ホントに大丈夫かしら？

優子の肩に手を置く海音寺。

小鳥が海音寺と優子に向って手を振る。

小鳥:いってきます！

優子が小鳥に親指を立てる。

海音寺:着陸地点で待ちましょう

act54

○山形駅 高速バス停留所

バスが止まり、乗客が降りてくる。

act55

○山形県内 南陽スカイパーク 着陸地点

小鳥が飛んでくる方向を見る海音寺と優子。

海音寺:あそこから飛んできますよ

優子:あんな高いところから？

海音寺:ベテランのインストラクターが一緒ですから大丈夫です

優子:小鳥が飛んでくるなんて信じられない

落ち着かない様子の海音寺と優子。

テイク・オフ地点を心配そうに見守る。

act56

○山形県内 南陽スカイパーク テイク・オフ地点

準備が終わり飛び立つ前の注意点を指導されている。

インストラクター:最初はゆっくり前に進んでください。その後、走ってと声をかけます。
そしたらダッシュです！

小鳥:ホントに大丈夫ですか？私でも出来ますか？

インストラクター:心配いりませんよ。走り出したらすぐに飛び立ちますから

小鳥:はい

強い風が吹き地面の草木を揺らす。

風がおさまるとインストラクターはテイク・オフの最終段階に入る。

インストラクター:じゃあ行きまーす、3、2、1、ゆっくり前に！

小鳥はゆっくり前に進み出す。

パラグライダーの黄色の帆がふんわり上がり、インストラクターはそれを確認する。

インストラクター:ここでダッシュ！

小鳥とインストラクターはダッシュすると既に小鳥の体は宙に浮かんでいる。

小鳥:えっ！！

インストラクター:オッケー！

二人を乗せたパラグライダーは飛び立つ。

小鳥が目を瞑ると画面はブラックアウトし、ゴウーという風を切る音だけが聞こえる。

小鳥が目を開くとだんだん小さくなる地上の景色が見える。

小鳥:わたし飛んでる！

act57

○山形県内 南陽スカイパーク 着陸地点

海音寺が指さす。

海音寺:小鳥さんだ！

優子:えっ、どこ？

海音寺:あれです、あの黄色の

優子:あれが…

海音寺:小鳥さんを乗せたパラグライダーです

優子:小鳥が…飛んでる

ゆっくりと旋回しながら飛ぶパラグライダー。

小鳥を乗せたパラグライダーがゆっくり近づいてくる。

優子は両方の腕を空に向かって伸ばし、掌をパラグライダーに向かって空にかざす。

空に向かって手をかざす優子の後ろ姿。

パラグライダーが着地する。

装備を外してもらう小鳥。

ヘルメットをつけたままで、手を振り優子の元に走ってくる小鳥。

手を振り返す優子。

手を振りながら小鳥が優子に叫んでいる。

遠くてよく聞き取れない優子。

小鳥:…あーさーん

段々近づいてくる小鳥。

小鳥:母さーん！母さーん！

優子:小鳥！

優子に抱きついてくる小鳥。

小鳥:ただいま！！

優子は小鳥を抱きしめる。

小鳥:私飛んだよ！

優子:見てたよ！

小鳥:怖かった！でもまた飛びたい！母さんも飛ぶでしょ！？

優子:当たり前だよ！

小鳥:私見てるからね、母さんが飛ぶところ！

優子:お前みたいメソメソしないよ

小鳥:一緒にいたい

優子:小鳥…

小鳥:ずっと一緒にいたい！母さん、私の母さん！施設に行かないで！

優子:バカだね、この子は

小鳥を抱きしめる優子。

小鳥:次の計画立てなきゃ！代理店で予約しよう！今日もフードコートでご飯にしょ！

海音寺が思い詰めた表情で歩いてくる。

ヘルメットを外している小鳥に近づく。

海音寺:あの！！

小鳥:海音寺くん！今日は本当にありがとう

小鳥が海音寺の手を握る。

海音寺は小鳥の手に携帯電話を握らせ、土下座する。

小鳥が携帯電話を見つめる。

海音寺:すいません！

小鳥:なんで海音寺くんが

海音寺:オレが悪いんです！

携帯電話を見つめたままの小鳥。

海音寺:それに小鳥さんへのメッセージが入ってたんです。おねえちゃんに頼まれてたのに！小鳥さんに渡してくれって頼まれてたのに！

頭を下げっぱなしの海音寺。

小鳥は携帯電話を開いて点滅する録音ボタンを押して携帯電話を耳にあてる。

涙が流れる小鳥。

小鳥が携帯電話のメッセージを聞いていると視線の先に女性の姿が見える。

ショートカットで金髪、スキニージーンズに白いシャツを着た女性がゆっくり近づいてくる。

風になびく女性の金髪。

小鳥:ウソ…

小鳥が女性の方へ歩く。

海音寺:オレがバカだから！

中学時代の小鳥とすれ違う救急車の映像。

海音寺:届けられなかったんです！

act58

○山形県 平屋(借家) 奈々の実家 昼

泣きながら奈々にしがみつく少年。

白い軽自動車が止まっている。

運転席に座る 15 年前の園長。

奈々:男だろー、泣くなよ

海音寺:だってどっか行くんでしょ？

奈々:また会えるから

海音寺:ウソだ！

奈々:ホントだよ。サッカー選手になって私のこと迎えに来て

海音寺:わかった

奈々:約束

海音寺と奈々は指切りする。

奈々:ねえ、ばっさー、私の友達のおねえちゃん覚えてる？

海音寺:うん

奈々:そのおねえちゃんがきたらこれ渡してくれる？

奈々はポケットから携帯電話を取り出す。

奈々：施設には持っていけないんだ

海音寺：渡せばいいの？

奈々：うん、一番大切な人なの

海音寺：絶対に渡す

奈々：またね

奈々は軽自動車に乗り込む。

軽自動車が走り出す。

その後ろを追いかける海音寺。

バックミラーで海音寺の姿をみる奈々。

奈々が涙を流す。

泣きながら追いかける海音寺。

車が遠くになり、膝に手をつき息を切らす海音寺。

海音寺は走り出す。

携帯電話を握りしめている。

走る海音寺の前方に横断歩道の信号機がある。

青から赤に点滅する信号機。

走るスピードをあげる海音寺。

キキッという車のブレーキ音とドン！という何かと何かが衝突する音。

act59

○山形県 南陽スカイパーク 着陸地点 昼

頭を下げ続ける海音寺。

優子：頭を上げなさい、海音寺くん

海音寺：オレ知らなかったんです！

優子：いいから、頭を上げて！

海音寺はゆっくり頭を上げる。

優子：見なよ、あの子たち

act60

○山形県 南陽スカイパーク 昼

おだやかな風がスカイパークの草木を揺らす。
ゆっくりと糸と糸で繋がっているように歩み寄る小鳥と女性。
手を伸ばせば触れ合える距離まで近づく二人。

女性: 約束覚えてる？

頷く小鳥。

小鳥: …奈々

奈々: 小鳥

二人は互いの左手と左手を合わせる。
指と指を絡ませて手を繋ぐ二人。
抱きしめ合う、奈々と小鳥。

小鳥: おかえり

奈々: ただいま

制服を着て手を繋いだ中学時代の奈々と小鳥が抱き合う二人の姿を見て微笑んでいる。

act61

○山形県内 南陽スカイパーク 着陸地点

車いすの優子を真ん中に左右に小鳥と奈々が立っている。
海音寺を乗せたパラグライダーを見守る。
優子の背中で小鳥と奈々は手を繋いでいる。
海音寺を乗せたパラグライダーが飛んでいる。
パラグライダーと一緒に並走する様に飛ぶ鳥。
鳥は小鳥の頭上の空を飛び去っていく。
鳥をが飛び去った方向を見つめる小鳥。
小鳥の視線に気づき小鳥の方を見る奈々。
奈々と小鳥の視線が合い、心からの笑みを浮かべる。

act62

○山形県内 繁華街 昼

銀行の無人 ATM から出てくる加代。
ため息をついて、ハンドバックからタバコを出して火をつけようとする。
子供の声が聞こえ、声の方を向くと小学生位の女の子二人が手を繋いで歩いてくる。
口にタバコをくわえたまま、火をつけるのをやめ通り過ぎるのを待つ加代。
女の子達が通り過ぎ、タバコに火をつけている時に 1 羽の小さな鳥が飛来して地面をついばみ始める。

小さな鳥を見つめながら煙を吐き出す加代。
小さな鳥はすぐに飛び去ってしまう。
もう一度タバコを吸い込み、煙を吐き出すと小さな鳥が飛び去った方向に背を向けて逆方向へと歩き出していく。

act63

○山形県 山形市 カラオケボックス

小鳥は優子の隣に座っている。
海音寺は室内の電話で注文している。
奈々はデンモクで曲を入力している。

小鳥: 奈々の歌聴くの初めて
優子: 楽しみだね

海音寺はイエーイと奇声を上げタンバリンをシャラシャラ鳴らしながら席に座る。

小鳥: 海音寺くん!
海音寺: はい!
小鳥: 静かにして
奈々: そういふとこだぞ!

笑う小鳥、奈々、優子と頭を掻く海音寺。
イントロが流れる。
カラオケのモニターに曲目が表示される。
「Fly high」

了